

# フィールド風

(現場)からの

宮田守男

2月は旧暦に如月、仲春、梅見月など春の訪れを期待する異称がある。しかし「きざらぎ」を「衣更着」と書いて「重ね着しなけ

ればならないほど、まだまだ寒い日が続く」との説があるように今年の冬は、朝晩の寒さに困惑している方も多い。

北京五輪ジャンプノーマルヒルで小林陵侑選手が長野五輪の船木和喜さんのライシヒルの優勝から24年ぶりの個人での金メダル獲得。当時を懐かしく思い出す。24年の時間が過ぎ、当時は語れる人たちが少なくなつた事も事実だ。大会成功を支えた歴史を伝えて行く事も大切な。

悪天候対策と白馬会場に訪れた皆さんに好印象を持っていただけ

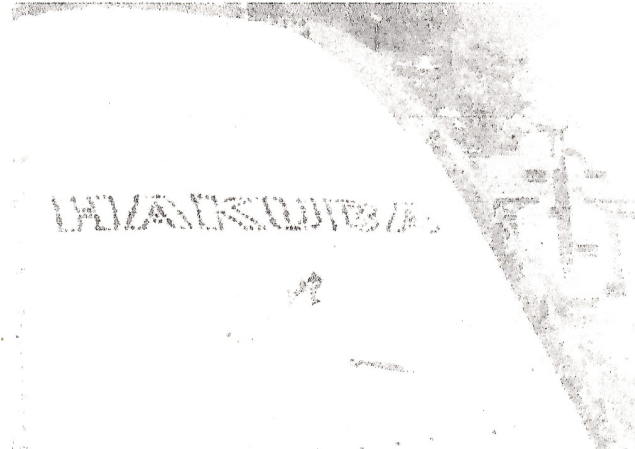
る事が重要と、白馬村実行委員会が協賛各社の支援を受けて設置した八方第五駐車場のスノードームはオリピック1年前から設置された。設置費用や維持管理経費は1億円以上で、協賛依頼で東京などに頻繁に出掛け

た。午後長野新幹線で東京に向かい滞在中は可能な限り協賛メリットを語り続け、夜行電車で白馬に戻る日常が続いた。

## 長野五輪白馬会場で繰り広げられた事実を語り続けよう

大会中は悪天候に何度も見舞われ強烈な風雪雨の中、避難場所として活躍した。数千人に及ぶ大会役員、ボランティアの交流場所や連絡場所。ドーム内のステージでは70回余に及ぶ大北関係者の芸能祭、400名にわたるトークショー。司会を務めた故丸山重雄白馬新聞社主の知識豊富で

た。食事を用意するのだが、限られた予算の中、現場で重労働する皆さんを満足させる食事の提供にこだわった。白馬観光開発のスタッフの事は忘れてはならない。そしてJ.R白馬駅か



公開練習がスタートしたジャンプ台には白馬の文字。五輪で白馬を伝えようとの意気込みだ

写図を鑑賞して感動された方も多かったはずだ。他にも多くの皆さんの支援で成功した五輪は白馬村民が成し遂げた偉業と共に、多くの皆さんの支援によって成り立ったことを忘れてはいけない。(信州地域社会フォーラム会員・白馬村森上)